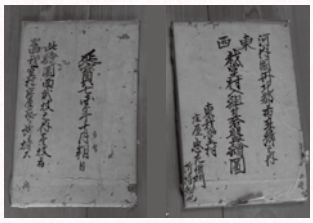
我堂村の成立を探る発掘

西田 孝司（松原市文化財保護審議会）

▲山寺出土瓦の拓本
（松原市教育委員会提供）

▲大和川今池遺跡の発掘　府道沿いの南側に山口家が見える。



▲「東西我堂村入組碁盤絵図」（延宝7年10月、山口家蔵）

▲「正治二年」と刻まれた山口家墓石（堺市北区北花田・阿坂墓地）

「大和川今池遺跡の発掘調査成果」は、狭山池博物館の展示会（平成27年12月11日～28年1月17日）の資料と、28年1月9日に同館で行われた調査担当者の山田隆一氏の講演会資料による。

平安時代～鎌倉時代の集落跡 山寺の名を想定する寺の存在

江戸時代、東我堂村の庄屋であった山口家（「歴史ウォーク」227）は、府道我堂ー金岡線と府道大堀ー堺線が交わる西南側に建っています。この大堀ー堺線の拡幅工事が昨年来から本年当初にかけて行われましたが、山口家やすぐ西の我堂八幡宮前の府道沿い一二六メートルが大和川今池遺跡に含まれていましたので、発掘調査が実施されました。大阪府教育委員会（現教育庁）が担当しましたが、九世紀の平安時代から十四世紀の鎌倉時代までに営なまれた集落跡が見つかりました。また、この時期の土器類とともに瓦類も多数出土しましたので、寺院も存在したようです。

大和川今池遺跡は、大和川や今池水みらいセンターを北限とし、調査地の天美我堂五・六丁目を南限とする東西・南北一・五キロの広い範囲を占めています。これまでの調査で、旧石器から近世におよぶ多数の遺構や多岐にわたる遺物が見つかっています。

天美我堂は江戸時代、東我堂村と西我堂村に分かれていましたが、両村の墓地は西隣りの堺市北区北花田の阿坂墓地に存在します。同墓地は、堺市となった旧五箇荘村との共有です。墓地東側の道路手前に山口家墓所があります。墓石は五輪塔として新しくつくり直されましたが、そこに「正治二年申歳八月二十五日」「我堂村山口市郎兵衛建之」と記しています。これは、江戸時代後半に、当主の市郎兵衛が山口家の起こりを刻したもので、鎌倉時代初期の正治二年（一二〇〇）までさかのぼっています。

史料上、我堂村の名が出てくる最初は豊臣秀吉が文禄三年（一五九四）十一月、同村に行ったいわゆる太閤検地の時です。「河州丹北郡布忍郷之内我堂村御検地帳」とあります。当時、我堂は布忍地域で、東西に分かれていませんでした。山口さん宅にも江戸時代前半の延宝七年（一六七九）十月に作成された東西我堂村の絵図が所蔵されています。ここには「河内国丹北郡布忍郷之内東西我堂村」とあり、この時期には東西に村は独立していました。

このように近世初頭には、我堂の集落が形成されていましたが、今回の発掘によって村の成立が平安時代にまでさかのぼる可能性があり、山口家墓石銘の正治二年の年代にも付合する検討材料にもなったのです。

発掘で確認された九世紀の平安時代の屋敷地では、南北溝を境に東側では畠地が、西側では六棟ほどの建物や井戸などが見つかりました。また、その西側で検出された十四世紀の二棟の建物は一般の屋敷というより、いっそう防御性の高い居館で、幅五・五メートル、深さ一メートルの濠も確認できました。居館の付近からは瓦器の椀や土師器の釜、瓦などが出土しています。

このうち、平安末期から中世初頭の一群から出土した軒平瓦や軒丸瓦の存在によって、近くに寺院があったことも注目されます。出土した軒平瓦には、確定はできませんが「山寺」とも読めるものが見られます。私はこの瓦を本年一月、「大和川今池遺跡の発掘調査成果」として、大阪府立狭山池博物館で展示されているのを見た時は驚きました。

なぜなら、調査地の北一〇〇メートルほどの我堂ー金岡線沿い東側で、過去に松原市教育委員会が発掘調査をしたことがありました。その際、平安末期から鎌倉時代の掘立柱建物や井戸・土坑・溝などが検出され、井戸や土坑からは多量の瓦や土器が見つかり、軒平瓦には梵字が刻まれていたからです。この地に中世初頭、寺院があったことが想定されたのですが、同地は「山寺」という字名でした。寺名は文献では明らかではありませんが、山寺とでもよぶべき寺院があり、それが今回の調査でも裏づけられようとしています。

大阪府教育庁による正式な報告書はこれからですが、我堂村の成立を知るうえで貴重な発掘調査となったのでした。